

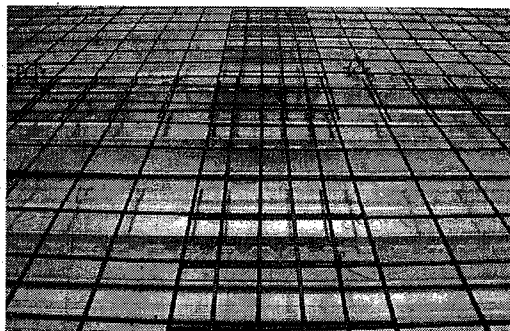
独自の異形鉄線溶接金網 耐火性能を証明

トーアミ 合成スラブ用 大型物件で採用

溶接金網メーカー最大手のトーアミは、独自の建築土木用異形鉄線溶接金網「トーアミCDメッシュ」で、合成スラブ用として2時間間の耐火実験による性能証明を取得した。新しい性能証明取得後、大型物件で初めて、東京都江東区の豊洲3丁目再開発プロジェクトの建築物件に合計約1000㎡(サイズ1000×1000)が採用された。これを機に同社は、合成スラブ向けを含めて受注を加速させる考え。

同社は2002年に日本建築センターの評定(パワーマットW)を共同で取得した後、07年、独自に日本建築総合試験所の建築技術性能証明(評価)を取得。トーアミCDメッシュとして商標登録し、評定取得品から7サイズ(CD5-10)線径5mm、5.5mm、6mm、7mm、8mm、9mm、10mm)に拡充、全国で販売してきた。

さらに今年5月12日付で、合成スラブ用に関する2時間耐火性能、長期荷重時のひび割れ幅低減効果と終局耐力、メッシュ重ね長さの短縮などを追加した改定版の性能証明(GBRC性能証明第07-16号改)を日本建



トーアミCDメッシュ、合成スラブでの採用例

築総合試験所で取得した。今回の合成スラブ用では、重ね継手長さがコンクリートの設計基準強度に比べて、30d(30倍)または35d(35倍)以上(dは異形鉄線の公称直径)となった。例えばCD10で5ヶ短縮するなど、通常のトーアミCDメッシュからさらに重ね長さを短縮できる。

製品は、溶接金網の突き出し(ヒゲ)部分を隣の溶接金網に差し込むだけで継手となる「延長筋重ね方式」で、端部の直交筋省略によりメッシュの重ね長さを短くでき、一般のCDメッシュや溶接金網に比べて軽量化することで、材料費用を10-15%削減できるのが特長。

また、網同士の重ねがないため床スラブの「かぶり」(コンクリート表面から溶接金網上面までの厚み)を確保しやすく、異形鉄線でコンクリートとメッシュとの付着性は良好。コンクリートのひび割れ分散性も高い。デッキプレートを用いた合成スラブは、鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造建築を中心に幅広い建築物に使われている。同社はトーアミCDメッシュ重ね継手・定着工法の設計施工要領書や性能証明などの資料をそろえ、販売を強化していく。

07-16号改)を日本建